

飯塚小型自動車競走場再整備方針



飯塚市経済部公営競技事業所

令和5年

はじめに

1950年代、エネルギー源の主体が石炭から石油へ移行する中、飯塚オートレース場は1957年（昭和32年）2月22日に開設され、地域のレジャーの場として、多くのファンに親しまれてきました。

オートレース事業による収益の一部は、飯塚市の会計に繰り出され、2023年（令和5年）3月時点での累計額は、587億円に及びます。

しかしながら、人口減少社会や昨今のレジャーの多様化などの社会環境の変化により、現状のままではオートレース事業が安定的・継続的に収益を生み出し続けることは厳しい状況であります。

特に、飯塚オートレース場の施設は、老朽化・陳腐化が著しく、維持修繕費用が収益を圧迫しているばかりか、来場者の安全面や利便性に大きな問題があるとともに、来場者の減少により過大となった施設規模のコンパクト化やネット販売の増加に対応した環境整備なども求められています。

このような状況の中、今後においても地域のレジャーの場として魅力ある快適な場を提供するため、2022年（令和4年）3月より耐震基準を満たしていない第1スタンドを解体し、本場開催を行うための主要施設としてメインスタンドの整備を進めています。

本市では、引き続きオートレース事業が、「地域への貢献」達成に向けた「持続的発展」のため、従来のお客様はもとより女性や子供をはじめ、誰でも気軽に訪れることができる施設となるよう整備に取り組むこととしました。

今後も市の貴重な財産として、多くの人々が集う、かけがえのない場所であるという責任を果たして行きます。

目 次

1. 飯塚オートレース場の位置	3
2. 既存施設の概要	4
3. 飯塚オートレース場の現状（１） 【①. 入場者の推移】	5
飯塚オートレース場の現状（２） 【②. 総売上の推移】	6
飯塚オートレース場の現状（３） 【③. チャンネル別売上割】	7
飯塚オートレース場の現状（４） 【④. 維持管理費推移】	8
4. 再整備イメージ（１） 【①. 将来の姿】	9
再整備イメージ（２） 【②. ゾーニング】	10
再整備イメージ（３） 【③. 必要となる機能（施設等）】	11



飯塚オートレース場の位置



福岡県のほぼ中央部に位置する飯塚市は、市域中央をJR筑豊本線が南北に縦断し、道路は南北に国道200号、東西に国道201号が貫き、市街地において交差する交通の要衝である。

また、政令都市である福岡市、北九州市とはそれぞれ20～30kmの距離に位置し、中核市である久留米市とは概ね40kmの距離に位置する。

飯塚オートレース場へのアクセスは、車利用の場合は、九州自動車道福岡ICから約40分、八幡ICから約25分、電車利用の場合は、JR博多駅から約40分（快速）、JR小倉駅から約60分（乗換要）、バス利用（無料）の場合は、市街地にあるバスターミナルから約10分、新飯塚駅から約6分である。

1. 既存施設の概要

所在地 飯塚市鯉田147番地

敷地面積 291, 287㎡

用途地域等 無指定

競走路 1周500m（内線部）

駐車場 5, 655台（90, 600㎡）

主な施設 ① メインスタンド（令和5年現在整備中）

② 第2スタンド（昭和45年）

③ ロイヤルスタンド（昭和63年）

④ 正門総合建物（平成5年）

⑤ 正門休憩所（昭和63年）

⑥ 南休憩所（平成元年）

⑦ CSシアター（平成10年）

⑧ 中央食堂（昭和55年）

⑨ 南食堂（平成8年）

⑩ 選手宿舎（昭和50年）

⑪ 競走車保管庫（昭和55年）

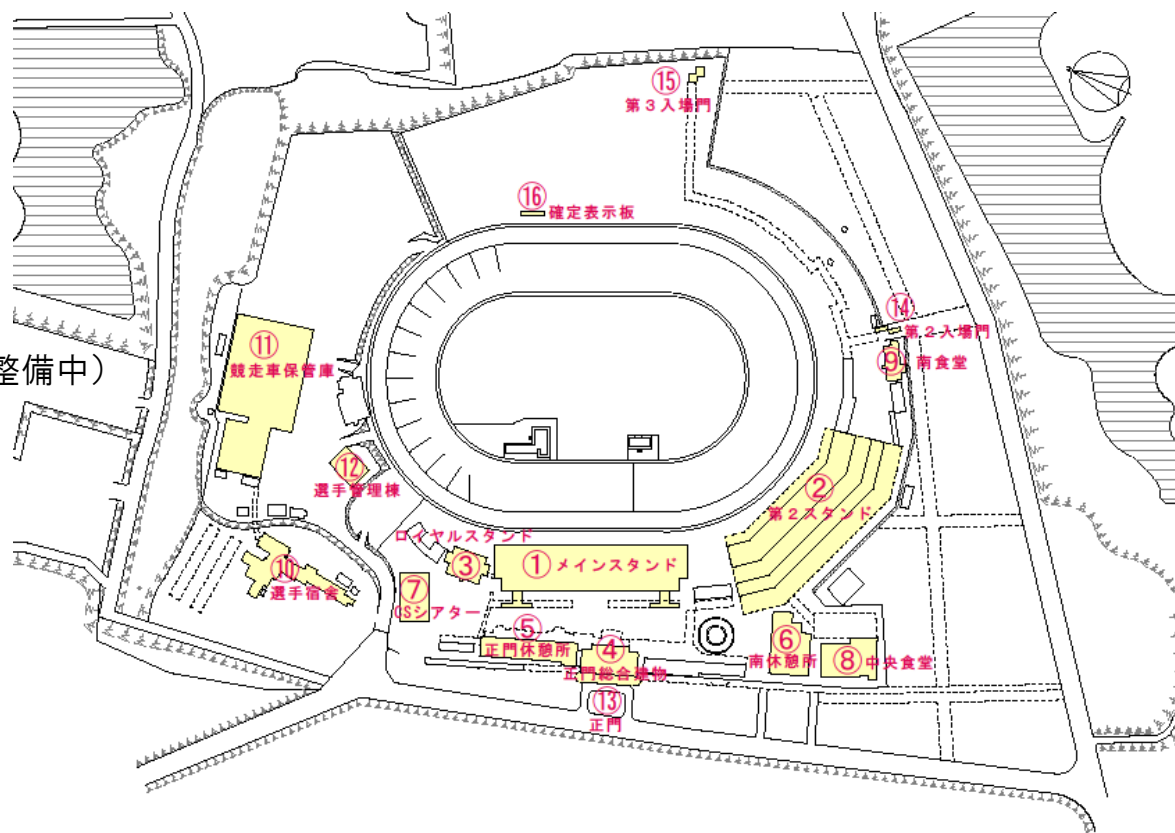
⑫ 選手管理棟（平成8年）

⑬ 正門（平成5年）

⑭ 第2入場門（昭和56年）

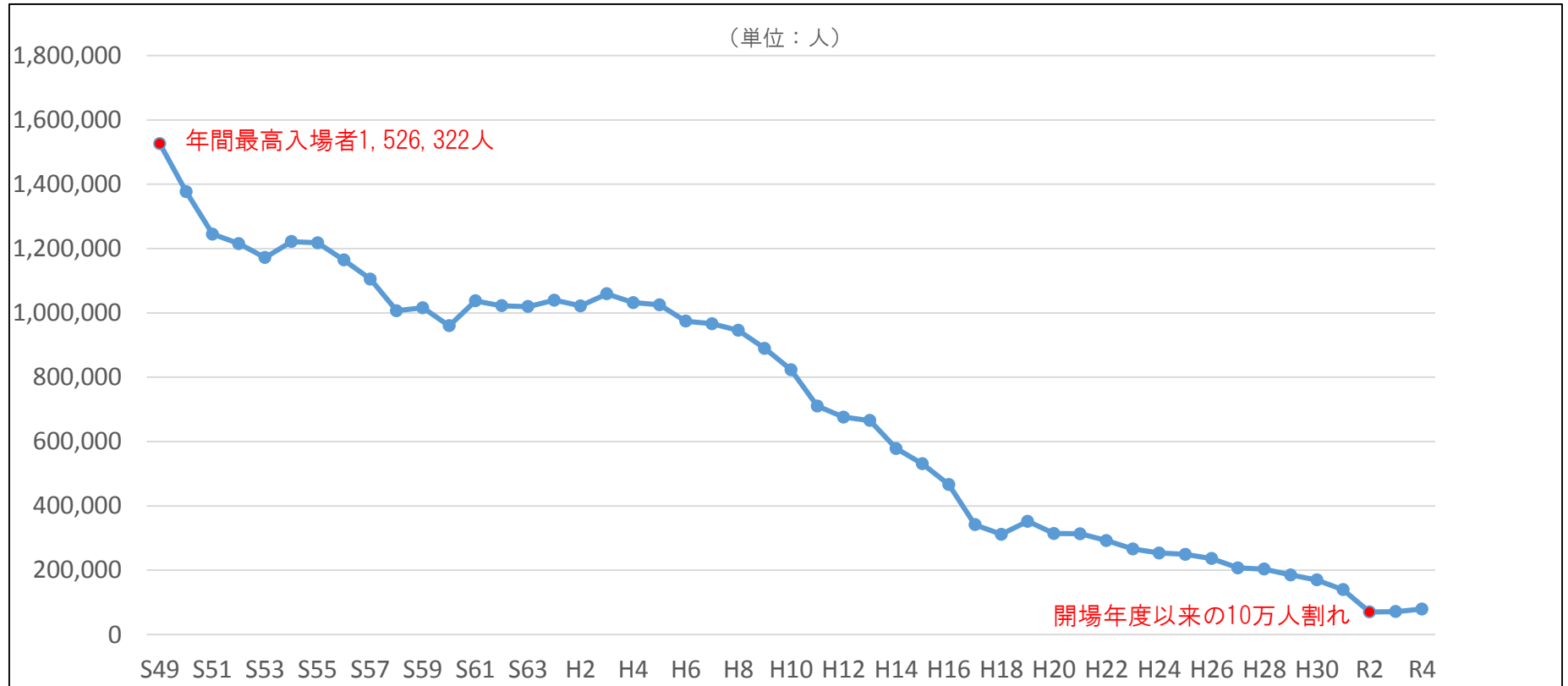
⑮ 第3入場門（昭和53年）

⑯ 確定掲示板（昭和42年）



2. 飯塚オートレース場の現状（1）

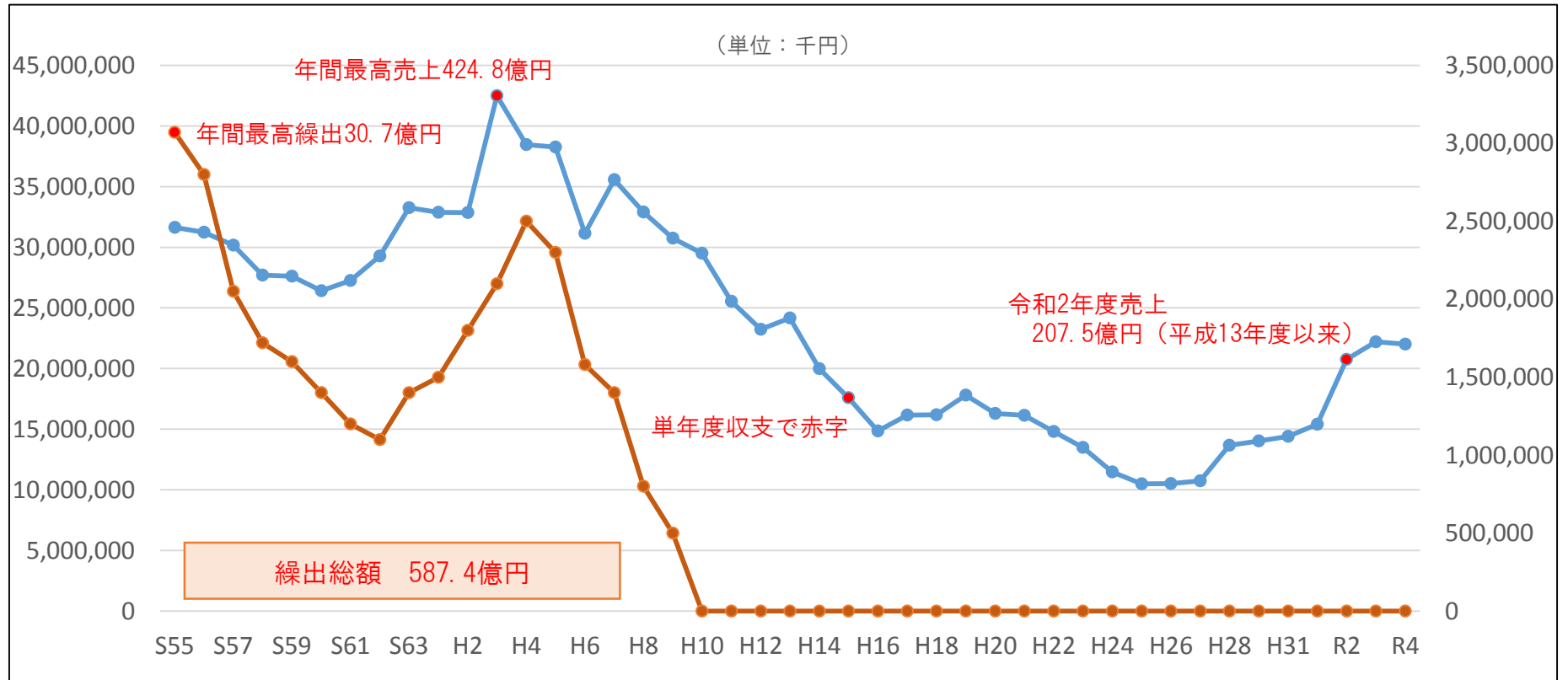
①. 入場者数推移



開催日数の影響もあり、平成3年度以降の飯塚オートレース場の本場入場者数は、減少傾向となりました。
特に令和2年度には、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により無観客レースの開催等を余儀なくされ、10万人を大きく下回る7万人という結果となりました。

2. 飯塚オートレース場の現状（2）

②. 総売上推移

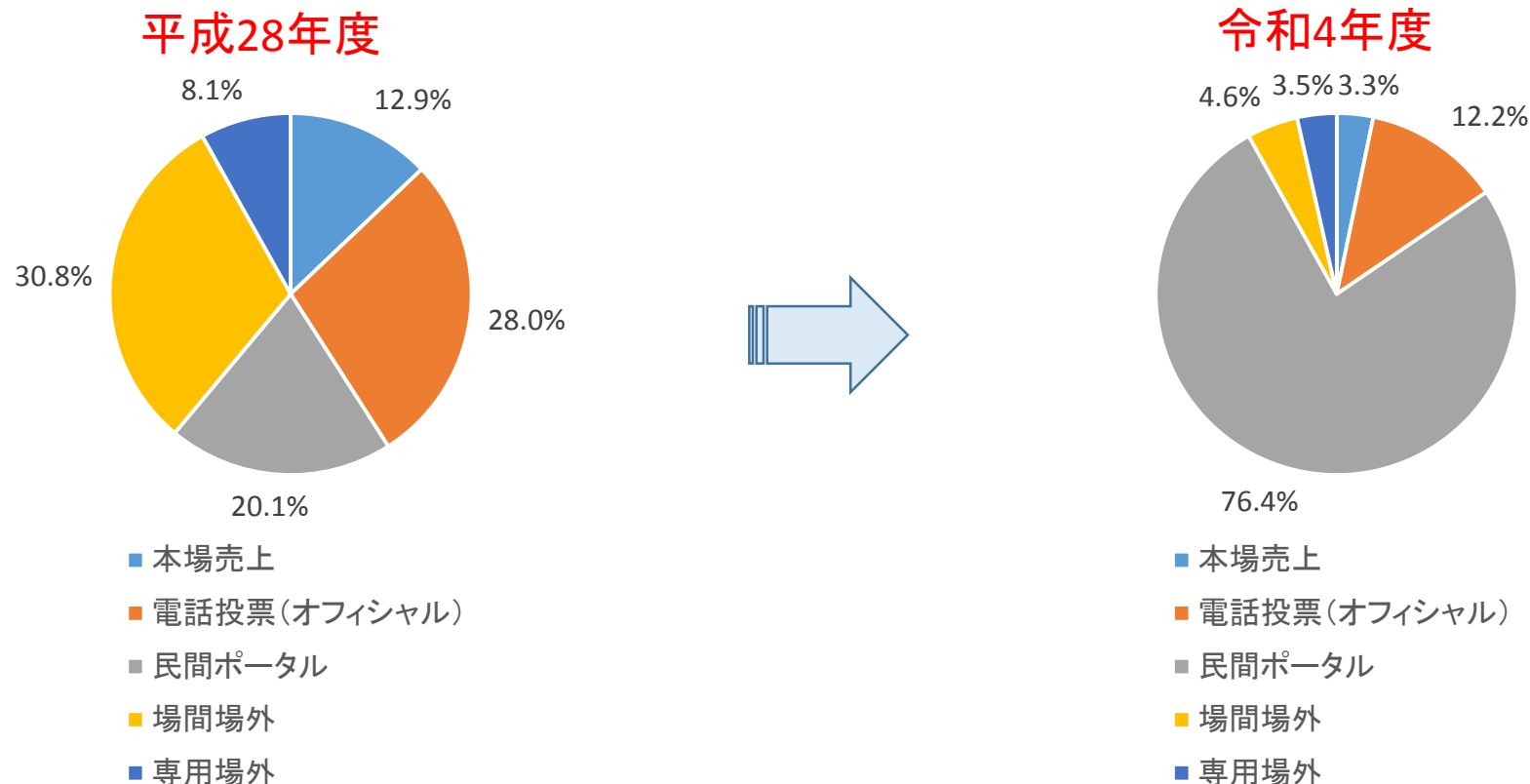


昭和31年度の開場より順調に売上げを伸ばし、平成3年度には過去最高となる424.8億円を記録するも、それ以降の売上げは減少をたどり、平成15年度に初めて単年度での収支が赤字となる事態となりました。

これを受け、経営改善計画の策定や包括的民間委託の導入などにより、令和2年度売上げでは207.5億円まで回復しました。

2. 飯塚オートレース場の現状（3）

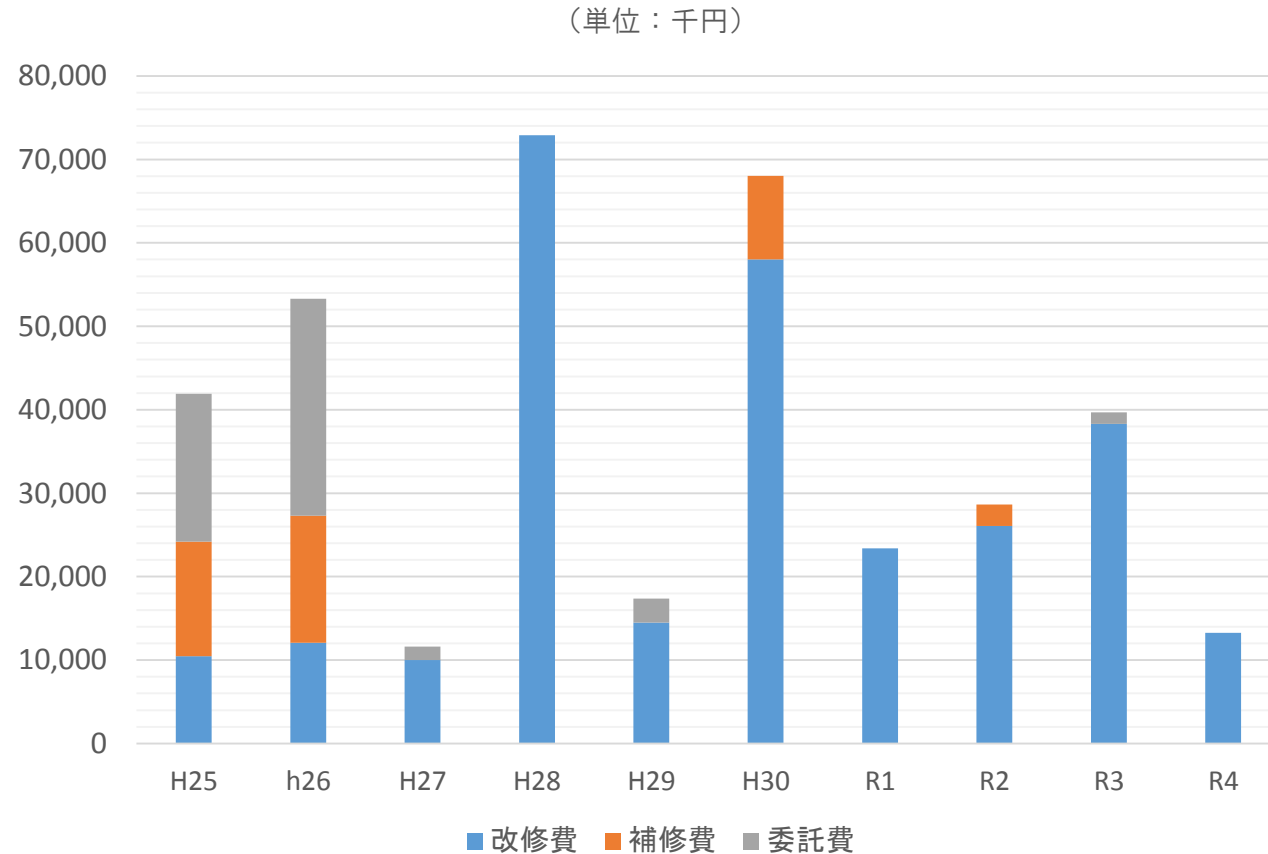
③. チャンネル別売上割



平成3年に開始された電話投票、平成15年開始のインターネット投票は通信技術の発達とスマートフォンの普及率に比例するよう、その売上げを大きく伸ばし、令和4年度総売上げの88.6%（電話投票+民間ポータル）を占め、その内、民間が提供するインターネット投票は、76.4%となっていて、売上げ全体の底上げに寄与しています。

2. 飯塚オートレース場の現状（4）

④. 維持管理費推移



平成27年度の包括的民間委託の導入により、施設の維持管理費のうち委託費は分担しておりますが、施設の老朽化により年間平均34,612千円(平成28年度から令和4年度)を要しています。

また、概ね8年に1回の走路改修(約250,000千円)や緩衝柵等の安全対策施設の定期的な取替が必要となります。

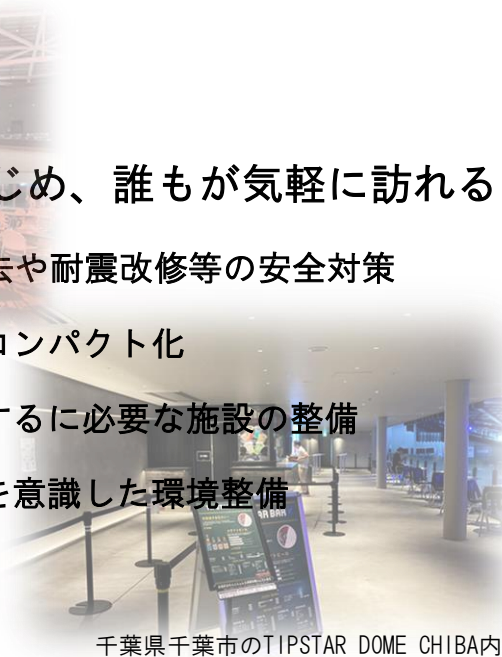
3. 再整備イメージ（1）

①. 将来の姿

「女性や子どもをはじめ、誰もが気軽に訪れることのできる魅力ある施設整備」

- ・老朽化した施設の撤去や耐震改修等の安全対策
- ・オートレース施設のコンパクト化
- ・新たなファンを開拓するに必要な施設の整備
- ・健康増進・憩いの場を意識した環境整備

収容施設の耐震性

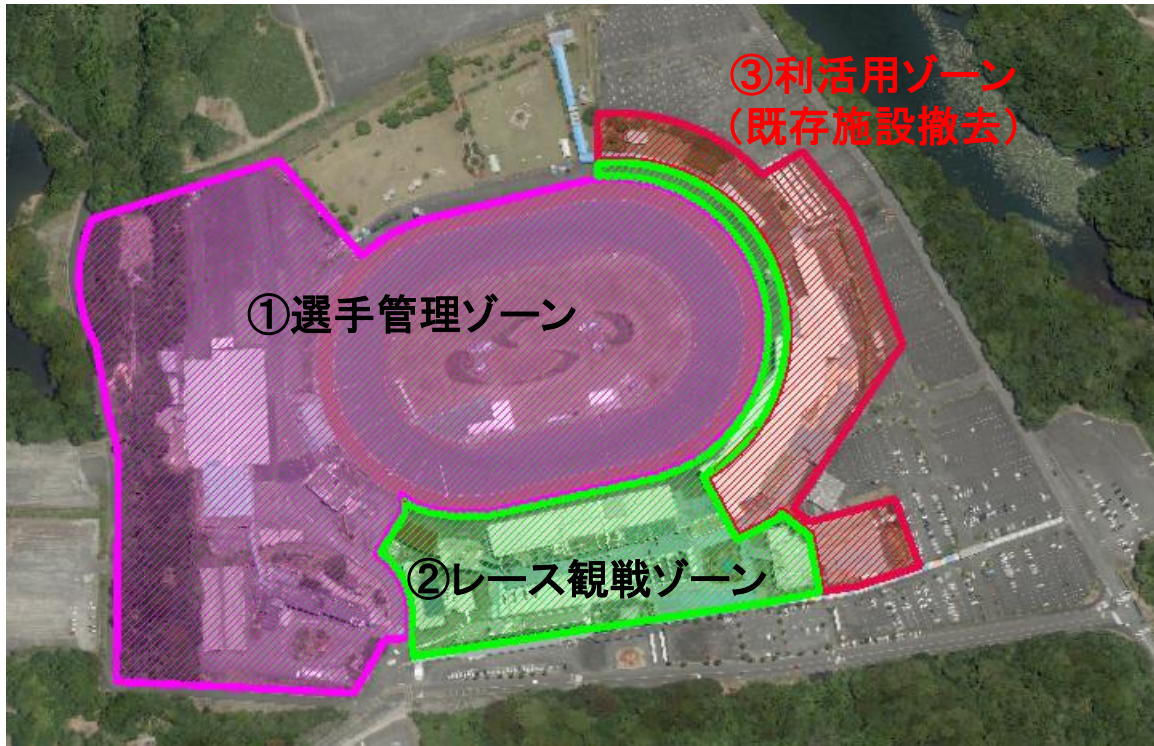


施設名	竣工年	延床面積 (㎡)	構造	耐震診断
第一スタンド ※1	昭和42年	8,416.36	鉄筋コンクリート一部鉄骨3階建	H28.1実施 : 倒壊・崩壊の恐れがある
第二スタンド	昭和45年	10,114.45	鉄筋コンクリート一部鉄骨4階建	H28.1実施 : 倒壊・崩壊の恐れがある
選手宿舎	昭和50年	2,188.57	鉄筋コンクリート3階建	H21.11実施 : 倒壊・崩壊の恐れがある

※1 令和5年度現在、第一スタンドは令和4年3月より新たに「メインスタンド」として整備中。

3. 再整備イメージ（2）

②. ゾーニング



①選手管理ゾーン

公正・安全なレースを運営するために必要となる施設の再整備を行う。
（選手宿舎・競走車保管庫・選手管理棟）

②レース観戦ゾーン

来場者の安全面や利便性を考慮し、また来場者の減少により過大となった施設規模のコンパクト化やネット販売の増加に対応した環境整備を行う。
（メインスタンド整備中・Wifi環境・イベント施設）

③利活用ゾーン（余剰地エリア）

第二スタンドを解体、また老朽化した施設の撤去を行い、女性や子ども、家族連れが気軽に訪れるエリアとする。
（カフェ・キッズパーク・ウォーキングコース）

全てのゾーンにおいて、民間活力を導入することを前提とし、柔軟なアイデアを活かせることとする。

3. 再整備イメージ（3）

③. 必要となる機能（施設等）

ゾーン	主要な必要機能	備考
選手管理ゾーン	・ 選手宿舎 ・ 検車場 ・ 部品庫 ・ 競走車保管庫 ・ 選手控室 ・ 選手管理室 ・ 賞典室 ・ インタビュー室 ・ 医務室 ・ 選手観覧席 等	・ 円滑なオートレース運営を行うため、必要な機能等については、JKA及び選手会と協議を行う。 ・ 民間活力の導入を検討する。
レース観戦ゾーン	・ 管理事務所 ・ 総合案内所 ・ お客様相談室 ・ 警備本部、警察官詰所 ・ 救護室 ・ 投票所 ・ 観覧席 ・ 中央集計室 ・ 売店 ・ 飲食コーナー ・ 開催本部 ・ 審判室 ・ 実況放送室 ・ VTR室 ・ 写真判定室 ・ 金庫室 ・ 電気室 等	・ 開催本部や審判室等のオートレース開催に必要な機能を維持する。 ・ 老朽化した施設の撤去を行い、女性や子ども、家族連れが気軽に訪れる環境を創造する。 ・ 安全、快適な観戦が可能となる必要最低限の機能を有する。 ・ ネット販売に対応したWifi等の環境整備を有する。 ・ 民間活力の導入を検討する。
利活用ゾーン （余剰地エリア）	・ カフェ、フードホール ・ キッズパーク、遊具 ・ ウォーキングコース、サイクリングコース ・ 屋外イベント開催が可能となる環境 ・ BMXコース、スケートボード広場 等	・ 老朽化した施設の撤去を行い、女性や子ども、家族連れが気軽に訪れるエリアを創造する。 ・ 民間活力の導入を検討する。
その他	・ 駐車場（施設利用者は無料）	
設備関係	・ 各種設備の見直し、更新 等	・ 既存施設の長寿命化を行う。 ・ 耐用年限の経過した設備の改修、更新を行う。